

(様式1) 実施報告書

1 補助事業者情報

(1) 事業者団体情報

団体名	大阪市
-----	-----

(2) 都道府県・政令指定都市との連携（申請者が地域国際化協会及び地域国際化協会に準ずる法人又は団体の場合のみ記載）

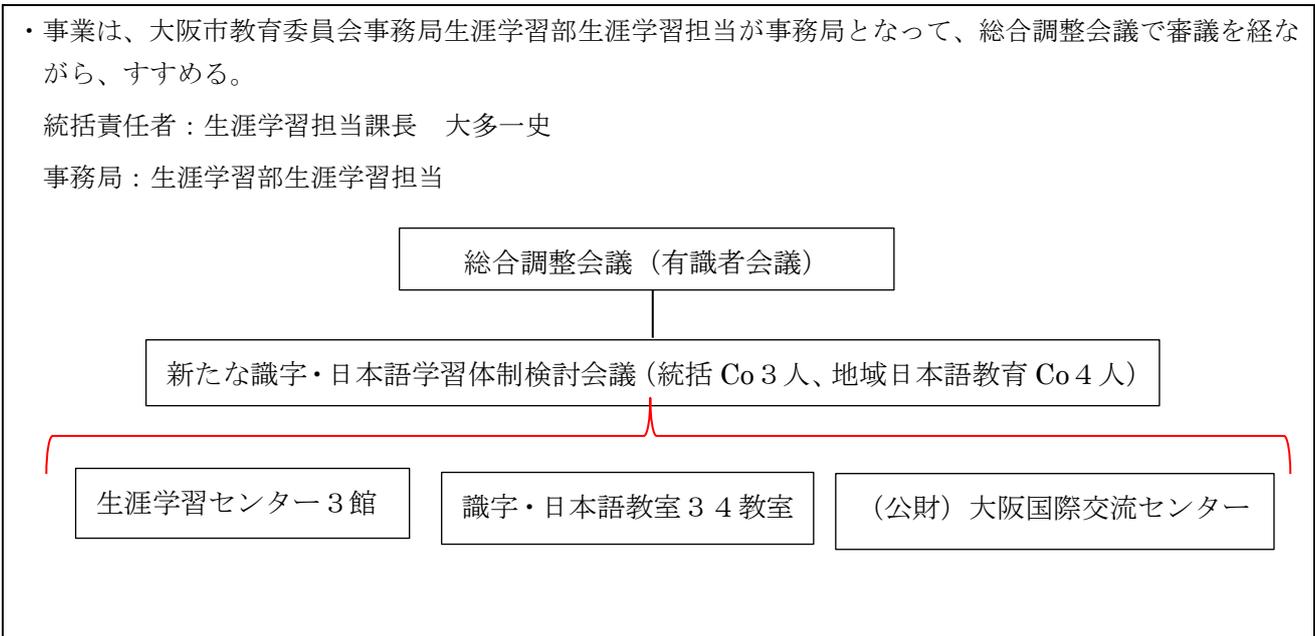
--

2 事業の概要

1. 事業の名称	大阪市における地域識字・日本語教育体制整備事業
2. 事業の期間	令和3年4月1日～令和4年3月10日（11カ月間）
3. 事業実施前の現状と課題	<p>大阪市においては、令和元年12月末現在、人口に占める外国人住民数の割合が5.34%と都道府県・政令指定都市の中で、最高の比率となっている。（令和元年12月末 外国人住民数145,857人、総人口2,730,420人）</p> <p>大阪市では、国際化の進展による新たな外国人住民をはじめ、義務教育を十分に受けられなかった方など、さまざまな理由から日本語の読み書きや会話に不自由している方々に対して、識字・日本語教室の開設等を通して学習機会の提供を行い、社会参加の促進を図っている。具体的には、市内小・中学校や市立施設等を会場として、交流を通して会話や読み書きを学ぶ地域識字・日本語教室や、大阪国際交流センターにおいて実施している生活支援につながる学習機会としての日本語教室、大学や市民団体等が実施している識字・日本語教室、民間の日本語学校、企業における日本語教育など、多様な活動が行われている。</p> <p>一方で、これらの教室については、各教室の設立経過の違いや、行政の所管部局が多岐にわたっていることなどにより、関係機関どうしの情報共有を含め、大阪市全体として有機的な連携等を行うための体制が十分に構築できていない。また、それにともない、学習者の多様な状況や生活課題、日本語習得レベルに対して対応できるような識字・日本語学習環境の体系化が進んでいないことも課題となっている。</p> <p>また、令和2年度には、新型コロナウイルス感染症の拡大にともない、各識字・日本語教室の休止といった状況が生じており、非常時における学習機会の確保についても課題となっている。</p>
4. 目的	<p>平成31年4月「出入国管理及び難民認定法」改正による新しい在留資格の創設等によって、今後、在留外国人の更なる増加が見込まれている。また、令和元年6月に施行された「日本語教育の推進に関する法律」では、基本理念として「日本語教育を受ける機会の最大限の確保」がうたわれており、外国人材の受入れ・共生のための地域日本語教育を進めるため体制づくりを行うことが急務となっている。</p> <p>本事業は、大阪市における識字・日本語学習体制の現状と課題を踏まえ、識字・日本語教室に対する支援の充実や人材育成、生涯学習センター・国際交流センター・NPO団体等の関係機関とのネットワークの構築に取り組むとともに、今後、より増加・多様化が想定される学習ニーズに対応できる体系的・総合的な識字・日本語学習体制の構築をめざす。</p>

3 事業の実施体制

(1) 実施体制 (図表等を活用して、総括コーディネーター及び地域日本語教育コーディネーターを含めて記載してください。)



《事業の中核メンバー》

	氏名	所属	職名	役割
1	柴田 亨	社会教育施設識字学級モデル教室「よみかき茶屋」	コーディネーター	総括コーディネーター
2	鵜飼 聖子	こどもひろば	事務局長	総括コーディネーター
3	鈴木 暁子	京都府立大学 京都地域未来創造センター	上席研究員	総括コーディネーター
4	丸山 敏夫	大阪市内識字・日本語教室連絡会	代表	地域識字・日本語教育コーディネーター
5	木下 和子	(公財) 大阪国際交流センター	事務局次長	地域識字・日本語教育コーディネーター
6	伊東 和子	(公財) 大阪 YWC A 日本語教室会	日本語講師	地域識字・日本語教育コーディネーター
7	掛橋 智佳子	生活の漢字を考える会	日本語講師	地域識字・日本語教育コーディネーター

(2) 域内の市区町村、関連団体等との連携・協力体制

<p>・識字・日本語連絡会との連携</p> <p>(月1回程度、参加者：大阪府下での識字と日本語、夜間中学校に関わる団体や個人など)</p> <p>大阪府、堺市とも協力しつつ、大阪府下での識字・日本語教室等活動の支援・充実に向けて、交流会等の実施に取り組む。</p> <p>・大阪識字・日本語協議会への参加</p> <p>(年2回程度、参加者：大阪府、大阪市、堺市、識字・日本語連絡会、大阪府人権協会関係者など)</p> <p>大阪府が実施している識字・日本語事業の内容についての説明・意見交換を行う機会を持つ。そのことで、関係団体等との協力体制の確認や今後の事業実施にむけての意見をもらう。</p> <p>・外国にルーツを持つことも支援ネットワーク大阪会議(年4回程度)</p> <p>外国にルーツを持つことも支援に携わるボランティア・運営担当者が気軽に集まり、顔の見える関係を築き、情報交換・共有、相談の場として開催し、地域で子どもをサポートする体制を強化する。</p>

4 令和3年度の事業概要

1. 令和3年度の実施目標				
<p>大阪府における識字・日本語学習体制の現状と課題を踏まえ、識字・日本語教室に対する支援の充実や人材育成、生涯学習センター・国際交流センター・NPO団体等の関係機関とのネットワークの構築に取り組むとともに、今後、より増加・多様化が想定される学習ニーズに対応できる体系的・総合的な識字・日本語学習体制づくりをめざして、下記の内容に取り組む。</p> <p>① 大阪府内における識字・日本語教育の実施に関する連携のための取組</p> <p>② 識字・日本語教育人材に対する研修</p> <p>③ 地域識字・日本語教育の実施</p> <p>④ 多様なニーズ・習得レベルに対応可能な日本語教室のあり方等検討</p> <p>⑤ 識字・日本語教育推進計画の策定に向けた実態調査の実施・調整</p>				
2. 実施内容				
【必須項目】				
(取組1) 総合調整会議の設置				
① 構成員				
	氏名	所属	職名	役割
1	有田 典代	NPO 法人関西国際交流 団体協議会	理事	国際交流の実践者 の立場からの意見
2	岩槻 知也	京都女子大学	教授	学識経験者の立場 から、識字教育・社会 教育・生涯学習 の視点での意見

3	上杉 孝實	京都大学	名誉教授	学識経験者の立場から、基礎教育、学校と社会教育の連携についての意見
4	新矢 麻紀子	大阪産業大学	教授	学識経験者、日本語教室実践者の立場から、地域ボランティアによる日本語学習支援にむけての意見
5	西口 光一	大阪大学	教授	学識経験者の立場から、職場や地域等で行う日本語教育についての意見
6	森 実	大阪教育大学	名誉教授	学識経験者の立場から、人権教育・社会教育についての意見
7	菅原 智恵美	大阪市内識字・日本語教室連絡会	副代表	教室における学習支援の実践者の立場からの意見
8	梅元 理恵	(公財)大阪国際交流センター	常務理事兼事務局長	多文化共生の実践及び日本語教室運営者の立場からの意見

②実施結果

実施回数	1回
実施スケジュール	3月 事業の進捗状況の確認・事業の総括・意見交換
主な検討項目	<ul style="list-style-type: none"> ・「識字・日本語教育体制に関する実態・ニーズ調査」について ・今後の識字・日本語学習体制の検討について ・コロナ禍を踏まえた識字・日本語教室の運営について

(取組2-1) 総括コーディネーターの配置

総括コーディネーター3名を配置し、今後の大阪市内の識字・日本語教育関係団体等の有機的な連携をめざして、各識字・日本語教室および(公財)大阪国際交流センター、NPO、日本語学校、大学等の関係団体等との有機的な連携の役割を担い、多様な識字・日本語学習ニーズに対応するための体制構築に向けた調整を行った。

(取組 2-2) 地域日本語教育コーディネーターの配置にむけた取組

地域日本語教育コーディネーターの配置【(○)】 選択した取組に○を記入してください。

地域日本語教育コーディネーターの候補者の育成【()】

地域識字・日本語コーディネーターとして、識字・日本語教室でのコーディネートや運営・指導の経験のある者や、日本語指導の経験のある者などを配置し、各教室からの要請等に応じて、教室運営や日本語指導の手法や教材等についての指導・助言を行うとともに、教室の状況や課題を踏まえて、地域の識字・日本語教室のあり方検討を行う予定であったが、新型コロナウイルスの影響にともなう教室休止等により、各教室からの相談等に対して個別に指導・助言の対応を行った。

(取組 2-3) 調査・推進計画策定コーディネーターの配置

調査・推進計画策定コーディネーターを配置し、「識字・日本語教育体制に関する実態・ニーズ調査」の実施にあたり、公募型プロポーザル方式での委託業者の選定や、アンケート項目の検討や回答結果に対する分析方法の検討など、調査の内容や手法について指導・助言を受けた。

【重点項目】

(取組 3) 都道府県等の域内における日本語教育の実施に関する連携のための取組

◎識字学級コーディネーター会議

識字・日本語教室の円滑な運営に向けて、各教室の運営を担うコーディネーター等が集まり、教室運営の課題や関係機関との連携等について、情報提供および意見交換を行った。新型コロナウイルス感染拡大防止対策として密を避けるとともに、より多くのコーディネーターに会議に参加していただくため、毎回、平日の午前と土曜日の夜間の2回、同じ内容での会議を行った。

(第1回)

【日 時】①令和3年7月3日(土) 18時30分～20時30分

②令和3年7月7日(水) 10時～12時

【場 所】大阪市立総合生涯学習センター

【参加者】①14名 ②14名

【内 容】・「人権の視点に立った識字・日本語教室運営のために」「差別事象対応マニュアル」

について生涯学習担当より説明

・研修「人権に関する気づきと学び～教室運営とコミュニケーションのあり方について～」

講師：李 福美さん(NPO法人 KARALIN)

(第2回)

【日 時】①令和3年11月20日(土) 18時30分～20時30分

②令和3年11月24日(水) 10時～12時

【場 所】大阪市立難波市民学習センター

【参加者】①17名 ②9名

【内 容】・「人権の視点に立った識字・日本語教室運営のために」への意見等について

・コロナ禍における各教室の状況について情報共有

(第3回)

新型コロナウイルス感染拡大により中止〔当初開催予定：3月2日(水)、5日(土)〕

◎識字・日本語教室拡大交流会

各識字・日本語教室に参加しているコーディネーターやボランティアを対象に、教室運営や人権尊重の視点、教室でのコミュニケーションのあり方について学ぶとともに、参加者どうしがそれぞれの教室の状況等について意見交換する機会として実施した。

【日 時】令和4年1月29日(土) 18時30分～20時30分

【場 所】大阪市立総合生涯学習センター

【参加者】19名

【内 容】「わたしの『ふつう』 みんなの『あたりまえ』～だれもが安心できる教室づくりのために～」

講 師：栗本 敦子さん [Facilitator's LABO (えふらぼ)]

◎識字・日本語パネル展

大阪市内識字日本語教室の学習者・学習支援者のメッセージを記載した「えんぴつポスター」をはじめ、各教室の様子を紹介する写真等を中央図書館ロビーにて展示を行った。

【実施期間】令和3年9月17日(金)～10月6日(水)

【場 所】大阪市立中央図書館 1階エントランスホールギャラリー

【内 容】・学習者・学習支援者のメッセージを記載した「えんぴつポスター」の掲示

・各教室の様子を紹介する写真パネルの掲示

・各教室で作成した文集等の展示

(取組5) 日本語教育人材に対する研修(研修受講者数(実人数):246人)

◎識字・日本語交流ボランティア入門講座

識字・日本語教室でのボランティア活動を希望する方を対象に、活動を始める前に知っておきたい事柄や、教室で大切にしていることなどについて学ぶ入門講座を開催した。

(第1期) 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、日程変更及び動画配信との併用で実施

【日 時】令和3年6月14日(月)～7月9日(金) 全4回 18時30分～20時30分

【場 所】大阪市立総合生涯学習センター

【参加者】定員:25名 申込者:46名 参加者:30名 のべ参加者:72名

【内 容】

(第1回:6/14～28 動画配信)

「識字・日本語教室ってどんなところ？」

講 師：菅原 智恵美さん(大阪市内識字・日本語教室連絡会 副代表)

(第2回:6/21～7/5 動画配信)

「日本語学習支援ってどんなこと?これだけは知っておこう!～」

講 師：澤田 幸子さん（合同会社おおぞら日本語サポート）

（第3回：6/25）

『識字・日本語ボランティア』をはじめる前に～人との関わり方について考えてみよう～

講 師：李ぼんみさん（NPO 法人 KARALIN）

（第4回：7/9）

「人権を守る識字・日本語教室であるために～教室の役割とボランティア～」

講 師：森 実さん（大阪教育大学 名誉教授）

（第2期）

【日 時】令和3年9月3日（金）～10月1日（金） 毎週金曜日 全5回 19時～21時

【場 所】大阪市立阿倍野市民学習センター

【参加者】定員：25名 申込者：26名 参加者：22名 のべ参加者：71名

【内 容】

（第1回：9/3）

「識字・日本語教室ってどんなところ？」

講 師：菅原 智恵美さん（大阪市内識字・日本語教室連絡会 副代表）

（第2回：9/10）

「日本語学習支援ってどんなこと？これだけは知っておこう！～」

講 師：澤田 幸子さん（合同会社おおぞら日本語サポート）

（第3回：9/17）

『識字・日本語ボランティア』をはじめる前に～人との関わり方について考えてみよう～

講 師：李ぼんみさん（NPO 法人 KARALIN）

（第4回：9/18～30）

「教室見学～実際の教室を見に行こう～」

（第5回：10/1）

「人権を守る識字・日本語教室であるために～教室の役割とボランティア～」

講 師：森 実さん（大阪教育大学 名誉教授）

（第3期）

【日 時】令和4年1月19日（水）～2月16日（火） 毎週火曜日 全5回 19時～21時

【場 所】大阪市立阿倍野市民学習センター

【参加者】定員：25名 申込者：32名 参加者：25名 のべ参加者：112名

【内 容】

（第1回：1/19）

「識字・日本語教室ってどんなところ？」

～大阪の識字・日本語教室が大切にしてきたこと・大切にしてほしいこと～

講 師：丸山 敏夫さん（大阪市内識字・日本語教室連絡会 代表）

(第2回：1/26)

『識字・日本語ボランティア』をはじめる前に～人との関わり方について考えてみよう～

講師：李ぼんみさん (NPO 法人 KARALIN)

(第3回：2/2)

「日本語学習支援ってどんなこと？これだけは知っておこう！～」

講師：澤田 幸子さん (合同会社おおぞら日本語サポート)

(第4回：2/3～15)

「教室見学～実際の教室を見に行こう～」

(第5回：2/16)

「人権を守る識字・日本語教室であるために～教室の役割とボランティア～」

講師：森 実さん (大阪教育大学 名誉教授)

◎識字・日本語ボランティアのためのスキルアップ講座

現在、大阪市内識字・日本語教室で活動しているボランティア講師を対象に、実際の教室活動で役立つより実践的な識字・日本語の指導方法について学ぶ研修を実施した。

【日時】令和3年10月2日(土)～12月4日(土) 毎週土曜日 全10回 14時～16時

【場所】大阪市立総合生涯学習センター

【内容】全10回の連続講座で、「識字・日本語教室の意義とボランティアの役割」「外国語として日本語を見てみよう」「対話型の活動～やさしい日本語を使って～」 「生活に必要な漢字の学習支援活動」などをテーマに、学習者との関わり方や識字・日本語の指導法や活動について学んだ。

【講師】公益財団法人とよなか国際交流協会、大阪YWCA日本語教師会講師ほか

【参加者】定員：20名 申込者：23名 参加者：21名 のべ参加者数：145名

◎識字・日本語ボランティアのためのステップアップ講座

現在、大阪市内識字・日本語教室で活動しているボランティア講師等を対象に、コロナ禍での外国人の現状や、多文化共生社会における人権問題等について学ぶ研修を実施した。

【日時】令和4年2月19日(土)～3月5日(土) 毎週土曜日 全3回 10時～12時

【場所】大阪市立総合生涯学習センター

【内容】

(第1回：2/19)

「日本で生活している『外国人』の人権について考えよう」

講師：朴 洋幸さん (一般財団法人 八尾市人権協会)

定員：30名 申込者：23名 参加者：19名

(第2回：2/26)

「日本で生活している『外国人』の暮らしを知ろう～仕事・コロナの影響～」

講師：北山 玲奈さん (株式会社 YOLO JAPAN)

定員：30名 申込者：31名 参加者：27名

(第3回：3/5)

「教室がめざす“多様性が尊重された場”とは～特権概念からマジョリティのあり方を考える～」

講師：栗本 敦子さん [Facilitator's LABO (えふらぼ)]

定員：30名 申込者：25名 参加者：25名

◎しきじ・にほんごカフェ

学習者や支援者など、識字・日本語に関わる人、関心のある人を対象に、情報交換や交流の場として、隔月で開催した。

【日時】奇数月の最終土曜日 14時～16時

【場所】大阪市立総合生涯学習センター

【内容】

(第1回：6/26) (新型コロナウイルス感染拡大の影響により、当初の5/29より日程変更)

- ・会場参加とライブ配信とを併用して実施

イベントタイム「みてみよう！やってみよう！KENDAMA」

講師：横山 郷史さん (大阪市生涯学習インストラクター)

定員：20名 参加者：11名

(第2回：7/31)

- ・会場参加とライブ配信とを併用して実施

イベントタイム「みてみよう！やってみよう！MAGIC」

講師：吉田 廣三さん (大阪市生涯学習インストラクター)

定員：20名 参加者：11名

(第3回：9/25)

- ・会場参加とライブ配信とを併用して実施

イベントタイム「みてみよう！やってみよう！フラメンコダンス」

講師：フランシスコ・ザビエル・ギジェンさん

定員：20名 参加者：8名

(第4回：11/27)

- ・会場参加とライブ配信とを併用して実施

イベントタイム「『やさしいにほんご』をつかってみよう！」

講師：谷山 道代さん

定員：20名 参加者：13名

(第5回：1/29)

- ・会場参加とライブ配信とを併用して実施

イベントタイム「ミュージックカフェ」

共 催：共生ひろば 出 演：ムン ミオクさんほかよみかき茶屋
 定員：20名 参加者：34名

(取組6) 地域日本語教育の実施取り組んだものに○

【○】 都道府県・政令指定都市が主催する地域日本語教育

【 】 日本語教育実施機関団体等への地域日本語教育

実施箇所数	37 箇所	受講者数 (実人数)	740 人
活動1	<p>【名称】 にほんごこんにちは (基礎レベルの日本語教室) (既設)</p> <p>【目標】 日本に帰国・来日された方で、はじめて日本語を学ぶ外国人住民等を対象に、生活上必要最低限の意思疎通が図れる程度の基礎の日本語会話を習得する場として開催</p> <p>【実施回数】 6コース (1回2時間×全20回)</p> <p>【受講者数】 90人</p> <p>【実施場所】 大阪市内生涯学習センター</p> <p>【受講者募集方法】 ホームページ、市内生涯学習施設等でのチラシ設置</p> <p>【内容】 大阪市作成教材「にほんごこんにちは」を活用し、日本語教師が講義形式で指導</p> <p>【開始した月】 5月</p> <p>【講師】 1コースあたり日本語教師2人</p> <p>【関係機関との連携】 【機関名】 大阪YWCA日本語教師会</p> <p style="text-align: center;">【連携内容】 日本語教師の派遣、レベルチェックの実施等</p> <p>(第1期) 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により期間を変更して実施</p> <p>【日 時】 令和3年7月9日(金)～9月21日(火)</p> <p style="text-align: center;">毎週火・金曜日(週2回) 全20回</p> <p style="text-align: center;">(朝コース) 10時～12時 (夜コース) 19時～21時</p> <p>【場 所】 大阪市立難波市民学習センター</p> <p>【参加者】 (朝コース) 定員：20名 申込者：33名 参加者：21名 のべ参加者：279名</p> <p style="text-align: center;">(夜コース) 定員：20名 申込者：21名 参加者：16名 のべ参加者：185名</p> <p>(第2期)</p> <p>【日 時】 令和3年10月15日(金)～12月20日(月)</p> <p style="text-align: center;">毎週月・金曜日(週2回) 全20回</p> <p style="text-align: center;">(朝コース) 10時～12時 (夜コース) 19時～21時</p> <p>【場 所】 大阪市立阿倍野市民学習センター</p>		

	<p>【参加者】(朝コース) 定員：20名 申込者：20名 参加者：17名 のべ参加者：269名</p> <p>(夜コース) 定員：20名 申込者：18名 参加者：13名 のべ参加者：202名</p> <p>(第3期)</p> <p>【日時】令和4年1月11日(火)～3月17日(木) 毎週火・木曜日(週2回) 全20回 (朝コース) 10時～12時 (夜コース) 19時～21時</p> <p>【場所】大阪市立総合生涯学習センター</p> <p>【参加者】(朝コース) 定員：20名 申込者：27名 参加者：14名 (夜コース) 定員：20名 申込者：14名 参加者：9名</p> <p>標準的なカリキュラム案等の活用の有無：無</p>
活動2	<p>【名称】識字・日本語教室(既設)</p> <p>【目標】国際化の進展による新たな外国人住民及びさまざまな理由により義務教育を十分に受けられなかった人など、日本語の読み書き、会話等に不自由している方々に対し学習機会を提供し、社会参加促進を図る。</p> <p>【実施回数】のべ548回(1回1.5～2時間)</p> <p>【受講者数】のべ2,166人(登録者数271人)</p> <p>【実施場所】市内小・中学校等</p> <p>【受講者募集方法】教育委員会、総合生涯学習センターHP、生涯学習施設等でチラシ設置</p> <p>【内容】マンツーマン・グループで、交流を通して日本語会話や読み書きを学ぶ。</p> <p>【開始した月】令和3年4月</p> <p>【講師】のべ2,205人(登録者数184人)</p> <p>【関係機関との連携】</p> <p>標準的なカリキュラム案等の活用の有無：無</p>
活動3	<p>【名称】外国人ふれあいサロン【既設】</p> <p>【目標】外国人住民の快適な生活に不可欠な日本語の指導を行い、特に、平日に日本語学校に通う機会のない外国人住民や、日本語学校の正規課程に入学し、長期間集中して日本語を学ぶ機会に恵まれない外国人住民に対し、日本語に触れ、学び、日本人と交流する機会を提供する。また外国人の要望に十分応えられるよう、ボランティアの資質向上のため研修会を行う。</p> <p>【実施回数】38回(1回1.5時間)※オンラインの場合は1回1時間</p> <p>【受講者数】定員：60人 参加者：57人</p> <p>【実施場所】大阪国際交流センター会議室及びオンラインの場合は自宅等</p>

	<p>【受講者募集方法】(公財)大阪国際交流センターHP、Facebook</p> <p>【内容】基本1対1での日本語指導。会話を中心に、参加者の要望に合わせて日本語指導の経験をもつボランティアが対応。対面とオンラインのハイブリットで開催した。</p> <p>今年度も、コロナ禍の影響で対面活動が難しい状況もあったが、その場合は、全面オンラインに切り替えて開催し、学習機会を提供した。</p> <p>また、活動ボランティアを対象に2回の研修会を実施。1回目は、オンラインによる会話形式での活動に関することやZoomでの活用実践体験を学び、2回目は、会話型教室の日本語の教え方や話題の見つけ方・決め方について学び、研修を通し育成を図った。</p> <p>【開始した月】4月</p> <p>【活動ボランティア】24人</p> <p>(外国人ふれあいサロン活動ボランティア研修)</p> <p>【1回目】『自己表現中心活動』のすすめ～きいて まねして はなして～</p> <p>日時：令和3年10月30日(土)14:00～16:00</p> <p>講師：矢谷 久美子さん(日本語教育支援グループ ことのは)</p> <p>募集定員：30人 参加者数：13人 参加希望者数：13人</p> <p>【2回目】「会話型教室の日本語の教え方(初級者～上級者)」</p> <p>日時：令和4年2月26日(土)14:00～16:00</p> <p>講師：船見 和秀さん(日本語教師・やさしい日本語エバンジェリスト 代表)</p> <p>募集定員：30人 参加者数：17人 参加希望者数：18人</p> <p>標準的なカリキュラム案等の活用の有無：無</p>
活動4	<p>【名称】たのしい日本語【既設】</p> <p>【目標】外国人住民の快適な生活の実現に不可欠な日本語の習得のため、特に、平日の昼間に日本語学校に通う機会のない外国人住民や、日本語学校の正規課程に入学し長期間集中して日本語を学ぶ機会に恵まれない外国人住民に対し、テキストに従ったカリキュラムに基づき、体系的に授業が受けられる場を提供する。指導にあたるボランティアについては、登録ボランティアの中から専門的技術やスキルを有するボランティアを選定し、活動の場を提供した。</p> <p>【実施回数】58回(1回1.5時間)</p> <p>【受講者数】定員：22人 参加者：10人</p> <p>【実施場所】大阪国際交流センター会議室及びオンラインの場合は自宅等</p> <p>【受講者募集方法】(公財)大阪国際交流センターHP、Facebook</p> <p>【内容】クラス形式での日本語指導(直接法)</p> <p>使用教材：『みんなの日本語 初級1』(スリーエーネットワーク刊)</p> <p>第1期：初級3(13～18課)、初級4(19～25課)(5月～7月)</p>

	<p>第2期：初級4（19～25課）（9月～12月） 第3期：初級2（7～12課）、初級4（19～25課）（1月～3月） 実践用教材：『みんなの日本語 初級1』（スリーエーネットワーク刊） 【開始した月】5月 【指導ボランティア数】13人</p> <p>標準的なカリキュラム案等の活用の有無：無</p>
活動5	<p>【名称】未就学・ダイレクト向け日本語・学習支援【既設】</p> <p>【目標】大阪に暮らす外国人の増加とともに、保護者の少なくとも一方が外国人である、いわゆる”外国にルーツをもつ子ども”が増加している。こうした子どものうち、未就学児や母国で中学校を卒業した後に渡日した子どもたち（ダイレクト）については、学校教育の対象外とされているのが現状である。また、外国にルーツを持つ子どもについては、家庭で日本語以外の言語が使用される場合が多く、自身のアイデンティティについて悩むことも少なくない。日本語学習についても、子どもの日常生活に沿った内容での支援が必要であるが、成人対象の教室と比べ、子ども対象の教室は少なく、日本語の支援を受けることができる場も十分にあるとはいえない状況である。</p> <p>こうした子どもに対して、学校を含む生活全般で使う日本語を学ぶ場を提供し、日本人の子どもと同じように、安心して快適な生活が送れるようコーディネートする。また支援に携わるボランティアについては、対象児童に向けた効果的な日本語指導の方法について研修を実施し、ボランティアの資質向上を図る。</p> <p>①「外国にルーツを持つ・外国につながる子どものためのプレスクール」 （「外国にルーツを持つ・外国につながる子どものためのプレスクール」実施に向けたボランティア打ち合わせ）</p> <p>【日時】令和3年4月8日（木） 【講師】白井 智美さん（大阪教育大学 准教授） 【参加者数】18人 【実施場所】大阪国際交流センター会議室 「外国にルーツを持つ・外国につながる子どものためのプレスクール」ボランティア養成講座）</p> <p>【日時】10月22日、10月29日、11月12日、11月19日【全4回】 【講師】白井 智美さん（大阪教育大学 准教授） 【参加者数】募集定員：50人 参加者数：53人 参加希望者数：59人 【実施場所】大阪国際交流センター会議室 【受講者募集方法】（公財）大阪国際交流センターHP、Facebook、区役所、図書館、生涯学習施設、地域日本語教室にチラシ設置</p>

(「外国にルーツを持つ・外国につながる子どものためのプレスクール」)

【実施回数・実施場所】

①淀中学校：令和4年1月15日【第1回】、1月22日【第2回】(1回2時間×2クラス)

※1月29日【第3回】についてはコロナ感染拡大に伴い中止

②もと鶴橋中学校：1月23日【第1回】(1回2時間)

※1月30日【第2回】、2月5日【第3回】についてはコロナ感染拡大に伴い中止

③南小学校：2月12日、19日、26日【全3回】、④高殿小学校：2月20日、27日、3月5日【全3回】については、新型コロナウイルス感染拡大に伴い全日程中止

【参加者数】 ①淀中学校：9人、②もと鶴橋中学校：3人

(「外国にルーツを持つ・外国につながる子どものためのプレスクール」ボランティアふりかえりミーティング)

【日時】 令和4年3月9日(水)

【講師】 白井 智美さん(大阪教育大学 准教授)

【参加者数】 16人

【実施場所】 大阪国際交流センター会議室

【内容】「プレスクール」では、学校を含む生活全般で使う日本語(あいさつ、体や物の名前、位置関係等)を学び、子どもとその保護者にとって、生活がスムーズになるよう支援するため、ボランティアを対象に養成講座を実施し、養成講座受講者がプレスクール当日、外国にルーツをもつ子どもの指導にあたった。令和2年度に引き続き、大阪市教育局の協力を得て、大阪市全域の対象児童・保護者に広報することができたが、新型コロナウイルス感染拡大のため、期間途中から対面での開催を中止することとなった(合計30回→6回)。

実施予定内容を撮影・編集した動画を、3月下旬に財団のYou Tubeチャンネルに対象(外国にルーツを持つ子ども・保護者のみ)・期間限定(2か月間を想定)公開予定である。

②「こどもひろば」

「こどもひろば」では、日常生活、学習に必要な日本語を学び、子どもの学習言語の力を伸ばし、生活の充実につなげた。教室については、ボランティアが連携し、協働して行った。コロナ禍の中、一部受入児童数を制限しながらも、感染予防対策をとり対面での教室運営を実施したが、教室に通うことが不安である家庭や遠方に住む子どもについては、オンライン(Zoom)を活用した支援を行った。

令和3年度はコーディネーター(有償ボランティア)を採用し、参加者の支援の現場を支える人材の育成を図り、コーディネーターを中心に教室が持続的・自律的に運営できる仕組みを構築した。

	<p>(「こどもひろば」 【実施回数】 全 97 回 (1 回 3 時間) (日本語補習含む) 【参加者数】 児童・生徒 53 人、コーディネーター 7 人、ボランティア 41 人</p> <p>(「こどもひろば」・「外国にルーツをもつ子ども支援ネットワーク大阪」オンライン (Zoom) 研修会) 【日時】 令和 3 年 9 月 20 日 (月・祝) 【参加者数】 48 人 ※定員制限なし</p> <p>標準的なカリキュラム案等の活用の有無：無</p>
活動 6	<p>【名称】 日曜にほんごサロン【既設】</p> <p>【目標】 外国人が日本語について気軽に質問したり (例：手紙の読み方、書類の書き方等) 交流できる場として、また、日本語が全く話せない外国人にとっては、日本の生活についての情報を得ることができる場として開催。「これから日本語を教えてみたい」と考える人や、自身の経験を活かしたいと考える外国人がボランティアとして担い手となり活躍し、毎週日曜に外国人が自由に参加し、日本語を学んだり、母語で交流したり、相談できたりするなど、外国人の住民の生活面のサポートも行う。また、令和 2 年度からコーディネーター (有償ボランティア) を導入しており、令和 3 年度は 2 年度に採用したコーディネーターの定着や研修を通してさらなるスキルアップを図るとともに、ボランティアによる自律的な教室運営を目指す。</p> <p>【実施回数】 38 回 (1 回 1.5 時間)</p> <p>【参加者数】 参加者 65 人、ボランティア 51 人 (コーディネーター含む)</p> <p>【実施場所】 大阪国際交流センター会議室及びオンラインの場合は自宅等</p> <p>【受講者募集方法】 (公財)大阪国際交流センターHP、Facebook</p> <p>【内容】 基本 1 対 1 での日本語教室。今年度は、大阪府全域における緊急事態措置及びまん延防止等重点措置の期間中は、オンライン (Zoom) でサロンを開催し、それ以外の期間は、対面でサロンを開催した。</p> <p>サロン開催時には、参加者・ボランティアが気軽に集まり顔の見える関係を築き、日常生活で困ったこと・分からないことを助け合う関係性を作るとともに、参加者が日本語を学び会話するきっかけとなることで、日本語学習への意欲を高め、当財団や地域の日本語教室へ参加する機会へとつなげた。加えて、外国人ボランティアにとっては母語を使つての支援や、新規来日の参加者に自身の経験等を伝える場ともなっている。</p> <p>コロナ禍における活動ボランティアの減少に伴い、新規ボランティアの募集を目的として「日曜にほんごサロン」ボランティア養成講座を対面にて実施。また、活動ボランティアを対象として、ボランティア Zoom 研修 (全 1 回) を開催し、オンラインによる日本語での交流方法について学ぶ機会を設けた。さらに新規コーディネーター対象の研修を実施し、育成を図った。</p> <p>【開始した月】 4 月</p>

	<p>(「日曜にほんごサロン」ボランティア養成講座)</p> <p>日時：令和3年7月18日(日)10:00～15:30</p> <p>講師：澤田 幸子さん(合同会社おおぞら日本語サポート)</p> <p>募集定員：40名 参加者数：33名 参加希望者数：33名</p> <p>(「日曜にほんごサロン」ボランティアZoom研修)</p> <p>日時：令和3年10月31日(日)10:30～12:00</p> <p>講師：小谷 昌彦さん(合同会社おおぞら日本語サポート)</p> <p>募集定員：45名 参加者数：8名 参加希望者数：9名</p> <p>標準的なカリキュラム案等の活用の有無：無</p>
活動7	<p>【名称】生活日本語コース【既設】</p> <p>【目標】外国人住民が、市民同様に快適に安心して生活できるように、最低限必要な日本語の会話能力の習得と、日本語の理解を高めることを目的として、(公財)大阪国際交流センターと独立行政法人日本学生支援機構大阪日本語教育センターとの共催で、大阪日本語教育センターの講師が指導する生活日本語コースを運営する。</p> <p>多文化共生事業における日本語学習支援として、ボランティアによる「外国人ふれあいサロン」、「たのしい日本語」、「日曜にほんごサロン」との重層的な学習機会として提供する。</p> <p>【実施日】</p> <p>春コース：令和3年4月26日～7月9日【51日間】</p> <p>夕方クラス 上記期間の火・木 【20日間】</p> <p>秋コース：令和3年8月23日～11月5日【50日間】</p> <p>夕方クラス 上記期間の火・木【21日間】</p> <p>冬コース：令和3年11月24日～令和4年2月25日【51日間】</p> <p>夕方クラス 上記期間の火・木【21日間】</p> <p>【実施回数】</p> <p><平日日中のクラス></p> <p>・1クール2h×5日×10週=100時間(平均)6クラス×3期</p> <p><夕方クラス></p> <p>・1クール2h×2日×10週=40時間(平均)1クラス×3期</p> <p>【受講者数】定員：168名、参加者：153名</p> <p>【講師】17名(日本語教師)</p> <p>【実施場所】日本学生支援機構 大阪日本語教育センター</p> <p>【受講者募集方法】(公財)大阪国際交流センターHP、チラシ掲示、大阪日本語教育センターHP等</p>

	<p>【内容】平日日中に集中的に学習するコースと、日中に受講が難しい学習者のための週2回の平日夜間のコースを開催した。プロの日本語教師の指導のもと、生活に必要な日本語を短時間で集中的・効果的に身に付けていただく機会とした。なお、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、全コースオンラインでの開催とした。</p> <p>標準的なカリキュラム案等の活用の有無：無</p>
活動8	<p>【名称】仕事のための実践日本語【新設】</p> <p>【目標】生活者としての外国人が大阪で仕事をするために必要な日本語や、企業文化等を実践的に学ぶ機会としての日本語教室。また、就職活動に必要な履歴書の書き方や面接の受け方についての講座を開講し、日本ですでに仕事をしている外国人、またはこれから就職/転職を希望する外国人が、希望通りの仕事を得て組織の中で日本人に交じって仕事がスムーズにできるようになることを支援する。</p> <p>【実施回数】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 仕事のための実践日本語教室 1期15回×3期=45回(1回 1.5時間) ○ 就職のためのアドバイス講座 1期2回×3期=6回(1回 1.5時間) <p>【受講者数】定員：45名、参加者：29名(1期4名、2期13名、3期12名)</p> <p>【実施場所】大阪国際交流センター会議室及びオンラインの場合は自宅等</p> <p>【受講者募集方法】(公財)大阪国際交流センターHP、Facebook、区役所、図書館、生涯学習施設、地域日本語教室、教会等にチラシ設置</p> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 仕事のための実践日本語 企業などでの就業経験を持ち、日本語教師の資格を持つ講師が、オリジナルテキストを活用し、名刺の渡し方や電話の取次ぎ、メールの書き方など、日本で仕事をする上で必要な日本語や日本での慣習やスキルも含めて指導した。 ○ 就職のためのアドバイス講座 企業から定年退職をした経験豊かな講師を迎え、日本での就職面接の心得、履歴書の書き方などを、個別指導や模擬面接を含め指導した。 <p>【開始した月】 5月</p> <p>【講師】 日本語教師 2名</p> <p>【関係機関との連携】</p> <p>第2期、第3期は大阪外国企業誘致センター(O-BIC)と共催。</p> <p>第2期、第3期は、大阪府警察本部の申し出により、授業後に防犯講座を実施。</p> <p>【教材】作成部数：500部</p>

(取組14) その他関連する項目

【名称】 識字・日本語教育体制に関する実態・ニーズ調査の実施

【目標】 今後の識字・日本語教育体制の構築に向けた具体的な検討や基本的な方針の策定を行うにあたり、その基礎資料とすることを目的に、既存の識字・日本語教育体制の現状や、識字・日本語に対する学習ニーズ等について調査を実施した。

【具体的な実施内容】

今後の識字・日本語教育体制の構築に向けた具体的な検討や、基本的な方針の策定を行うにあたり、その基礎資料とすることを目的に、既存の識字・日本語教育体制の現状や、識字・日本語に対する学習ニーズ等を把握するため、下記の各対象に対して、アンケート調査等を実施した。

- ・外国人住民 調査票送付数：3,000件 回答数：555件 回答率：18.5%
- ・識字・日本語教室 調査票送付数：49件 回答数：47件 回答率：96.0%
- ・日本語学校 調査票送付数：23件 回答数：18件 回答率：78.3%
- ・中学校夜間学級 調査票送付数：4件 回答数：4件 回答率：100.0%
- ・外国人支援団体 調査票送付数：8件 回答数：3件 回答率：37.5%
- ・仲介事業者 調査票送付数：476件 回答数：71件 回答率：14.9%

3. 効果

(1) 令和3年度の実施目標に対する評価

① 令和3年度の実施目標（年度当初に設定した目標を再掲）

大阪市における識字・日本語学習体制の現状と課題を踏まえ、識字・日本語教室に対する支援の充実や人材育成、生涯学習センター・国際交流センター・NPO団体等の関係機関とのネットワークの構築に取り組むとともに、今後、より増加・多様化が想定される学習ニーズに対応できる体系的・総合的な識字・日本語学習体制づくりをめざして、下記の内容に取り組む。

- ① 大阪市内における識字・日本語教育の実施に関する連携のための取組
- ② 識字・日本語教育人材に対する研修
- ③ 地域識字・日本語教育の実施
- ④ 多様なニーズ・習得レベルに対応可能な日本語教室のあり方等検討
- ⑤ 識字・日本語教育推進計画の策定に向けた実態調査の実施・調整

② 達成状況

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、昨年度に引き続き識字・日本語教室の活動休止等が生じたものの、感染防止対策の徹底やオンラインでの学習などを通して、学習環境の確保に向けた取り組みを進めることができた。また、識字・日本語教育人材に対する研修の実施にあたっては、動画配信の活用などの工夫を行いながら、予定していた事業をほぼすべて実施することができた。

今年度は、「識字・日本語教育環境に関する実態・ニーズ調査」を実施し、市内在住の外国人住民や、識字・日本語教育に関連する団体・機関等の現状やニーズについて具体的な把握を行うとともに、そこで明らかになった課題を踏まえ、今後の識字・日本語学習環境のあり方について検討を行うことができた。

(2) 個別の取組に対する評価

① 定量評価

- ・総合調整会議：前年度（ 1 ）回 当年度（ 1 ）回
- ・総括コーディネーター配置数：前年度（ 3 ）人 当年度（ 3 ）人
- ・地域日本語教育コーディネーター配置数：前年度（ 4 ）人 当年度（ 4 ）人
- ・実施した日本語教育人材に対する研修：（ 17 ）回（ 2 箇所 ） 当年度（ 35 ）回（ 3 箇所 ）
- ・実施した日本語教室：前年度（ 365 ）回（ 32 箇所 ） 当年度（ 1891 ）回（ 37 箇所 ）

①-2 実施計画書において設定した目標に対する定量評価

(定量評価に向けた目標設定)

- ・にほんごこんにちは（基礎レベルの日本語教室）への参加者数・参加希望者数 募集定員の 80%
⇒募集定員：120 名 参加者数：90 名（75.0%） 参加希望者数：133 名（110.8%）
- ・各種日本語学習事業への参加者数 募集定員の 80%
⇒募集定員：295 名 参加者数：249 名（84%） ※定員設定のある事業のみ該当
- ・ボランティア講座への参加者数 募集定員の 60%
⇒募集定員：380 名 参加者数：293 名（77.1%） 参加希望者数：338 名（88.9%）
※生涯学習担当・国際交流センター事業の合算。「しきじ・にほんごカフェ」除く。

② 定性評価

(定性評価に向けた目標設定)

「識字・日本語教室に参加することで、日本語が前より上手になった」と感じる割合 80%以上

「識字・日本語教室に参加することで、前より日本での生活ができるようになった」と感じる割合

80%以上

識字・日本語教室の学習者に対するアンケート調査

回答数：84 件（3 月 10 日現在。新型コロナウイルス感染拡大に伴う教室休止により未回収の教室が多数。今後も継続して回収に取り組む。）

- ・「識字・日本語教室に参加することで、日本語が前より上手になった」と感じる割合
⇒「教室に参加してから、あなたの日本語は前より上手になったと思いますか」との設問に対して、「上手になった」「少し上手になった」と回答した割合：94.0%
- ・「識字・日本語教室に参加することで、前より日本での生活ができるようになった」と感じる割合
⇒「識字・日本語教室に参加したことで、前より日本で暮らしやすくなったと思いますか」との設問に対して、「暮らしやすくなった」「少し暮らしやすくなった」と回答した割合：91.7%

(i)連携機関の広がりについて

ともに補助金申請を行っている教育委員会事務局生涯学習担当と経済戦略局〔(公財)国際交流センター〕において今後の識字・日本語学習体制の構築について継続的に意見交換の機会を設定したほか、多文化共生施策を所管する市民局ダイバーシティ担当や、外国人の子どもに対する日本語学習指導を実施している教育委員会事務局指導部などとも意見交換を行い、大阪市における関係部局とのネットワークを広げることができた。また、(公財)大阪国際交流センターでは、様々な事業を通じて在阪総領事館や外国人コミュニティ、外国人支援団体と連携しており、識字・日本語教育に関する情報を提供している。

(ii)新たな連携機関と連携した内容

新型コロナウイルス感染の影響が長引く中、生活困窮に悩む外国人が社会福祉協議会窓口を訪れることが多くなった。(公財)大阪国際交流センターでは、これまでも外国人相談窓口を設置する国・自治体行政窓口と連携し、日本語教室に関する情報提供を行っていたが、令和3年度は社会福祉協議会にも情報を提供することとなった。

(iii)どのような体制を構築できたか

大阪市においては、各識字・日本語教室の設立経過の違いや、所管部局が多岐にわたっていることなどにより、関係機関どうしの情報共有を含め、行政としても有機的な連携等を行うための体制が十分に構築できていない部分があったが、本事業の実施にともない、多くの識字・日本語教室を所管する教育委員会事務局・(公財)国際交流センターを所管する経済戦略局・多文化共生施策を担う市民局の横断的な連携をめざした環境づくりを行うことができた。

(iv)事業実施に当たっての周辺自治体や域内の関係者等へ周知・広報及び事業成果の地域への発信について

学習風景の写真や学習者・支援者の思いをつづった「えんぴつポスター」などを展示するパネル展を開催し、識字・日本語教室の活動について市民も含めて広く周知・啓発する取り組みを実施した。

実際の事業実施にあたっては、大阪市内の周知・広報にとどまったが、ホームページでのやさしい日本語の使用をはじめ、ボランティア募集記事の区民だよりへの掲載や活動場所周辺での重点的な広報の実施など、ニーズのある方により届きやすいような手法について工夫した。

また、大阪識字・日本語協議会や、大阪府下の識字・日本語施策の担当者会などに参加し、大阪府が実施している識字・日本語事業の内容についての説明・意見交換を行うとともに、大阪府や堺市など、他の自治体の取り組み等についても情報共有を行った。

4. 課題と今後の展望

(1) 課題と困難な状況への対応方法

今年度実施した「識字・日本語教育体制に関する実態・ニーズ調査」の分析等により、日本語を学びたいと考えている外国人住民の方々に、既存の識字・日本語教室の情報が十分に伝わっていないことや、出身地や在留資格、子どもや仕事の有無などによって、希望する学習形態や時間帯などが異なることなど、多様な課題を把握することができた。これらの課題の詳細な分析を通して、今後の識字・日本

語学習体制の検討を行っていく。

また、大阪市の識字・日本語施策においては、施策にかかわる部局が複数存在し、有機的な連携が十分に図れていないという課題があるが、本事業の実施にあたり「総合的な体制づくり」に向けた議論を進める中で、連携を図るとともに、人材育成や事業の実施において、今後、いっそうの連携強化や具体的な役割分担などを進めていくことについて意見共有することができた。

(2) 今後の展望

「実態・ニーズ調査」で明らかになった課題や、学習環境に対するニーズなどをふまえ、来年度は基本的な方針の策定に取り組むとともに、周知・広報の充実等による既存の識字・日本語教室認知度の向上や、ICTの活用をはじめとした、多様なニーズ、習得レベルに対応可能な学習環境のあり方について、具体的な検討を行っていく。

また、今年度構築したネットワークをより拡充し、大阪市の識字・日本語施策における総合的な体制づくりに向けて、引き続き有機的な連携に向けた取り組みを進めるとともに、人材育成や識字・日本語学習事業の実施において、具体的な役割分担などの議論などを進めていく。

なお、緊急事態宣言やまん延防止措置の発令に伴い、新型コロナウイルス感染拡大防止のため対面教室をオンライン（Zoom）開催へと変更する機会が今年度内に何度もあったが、オンライン教室への学習者のニーズを実感した。未就学児の子育て中の母親や若い世代等、対面での開催時とは異なる属性の学習者も多く、学習者の幅が広がった。また、地域の日本語教室がコロナ禍を受けて休止していた影響で、日本語学習機会を求める外国人も多く、オンラインでの教室は学習機会を継続するための貴重な機会を提供した。

オンラインでの日本語教室へのニーズの高まりを受け、令和4年度はオンライン日本語教室の立ち上げに向け、体制等整備を行う計画である。

【参考写真一覧】

貴団体の特徴的な取組について、4点まで、写真を御提出ください。

※著作権、肖像権に配慮し、事前に掲載許可が得られたものを御提出願います。

取組番号	写真名
3	識字・日本語パネル展
	
3	識字・日本語教室拡大交流会
	

6-6

日曜にほんごサロン 対面学習



6-8

仕事のための実践日本語 模擬面接



【参考資料一覧】

取組番号	資料名	NEWS 掲載
3	識字・日本語教室拡大交流会チラシ	○
5	識字・日本語交流ボランティア入門講座（第1期）チラシ	○
5	識字・日本語交流ボランティア入門講座（第2期）チラシ	○
5	識字・日本語交流ボランティア入門講座（第3期）チラシ	○
5	識字・日本語ボランティアのためのスキルアップ講座チラシ	○
5	識字・日本語ボランティアのためのステップアップ講座チラシ	○
5	しきじ・にほんごカフェ（6月）チラシ	○
5	しきじ・にほんごカフェ（7月）チラシ	○
5	しきじ・にほんごカフェ（9月）チラシ	○
5	しきじ・にほんごカフェ（11月）チラシ	○
5	しきじ・にほんごカフェ（1月）チラシ	○
6-1	にほんごこんにちは（第1期）チラシ	○
6-1	にほんごこんにちは（第1期）アシスタント募集チラシ	○
6-1	にほんごこんにちは（第2期）チラシ	○
6-1	にほんごこんにちは（第2期）アシスタント募集チラシ	○
6-1	にほんごこんにちは（第3期）チラシ	○
6-1	にほんごこんにちは（第3期）アシスタント募集チラシ	○
6-2	識字・日本語教室学習者対象アンケート	
6-5	こどもひろば参加者募集チラシ	○
6-5	こどもひろば・NW 研修チラシ	○
6-5	プレスクールボランティア養成講座チラシ	○
6-5	プレスクールチラシ	○
6-6	日曜にほんごサロンコーディネーター募集チラシ	○
6-6	日曜にほんごサロンコーディネーター研修チラシ	○
6-6	日曜にほんごサロンボランティア募集チラシ	○
6-7	生活日本語コース（春コース）チラシ	○
6-7	生活日本語コース（秋コース）チラシ	○
6-7	生活日本語コース（冬コース）チラシ	○
6-8	仕事のための実践日本語第1期チラシ	○
6-8	仕事のための実践日本語第2期チラシ	○
6-8	仕事のための実践日本語第3期チラシ	○